



2022年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年5月12日

上場会社名 浜松ホトニクス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6965 URL <https://www.hamamatsu.com/jp/ja/index.html>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 社長執行役員 (氏名) 晝馬 明
 問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員 管理部長 (氏名) 森 和彦 TEL 053-452-2141
 四半期報告書提出予定日 2022年5月13日 配当支払開始予定日 2022年6月2日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト・機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2022年9月期第2四半期の連結業績（2021年10月1日～2022年3月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年9月期第2四半期	100,516	26.7	28,097	95.2	28,645	99.0	21,341	97.9
2021年9月期第2四半期	79,342	8.7	14,392	17.7	14,396	14.3	10,784	19.8

（注）包括利益 2022年9月期第2四半期 25,713百万円（ 92.6%） 2021年9月期第2四半期 13,350百万円（ 46.2%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年9月期第2四半期	137.83	—
2021年9月期第2四半期	69.66	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年9月期第2四半期	328,678	259,021	78.5
2021年9月期	301,676	237,570	78.4

（参考）自己資本 2022年9月期第2四半期 257,908百万円 2021年9月期 236,522百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年9月期	—	20.00	—	28.00	48.00
2022年9月期	—	32.00	—	—	—
2022年9月期（予想）	—	—	—	32.00	64.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年9月期の連結業績予想（2021年10月1日～2022年9月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	199,000	17.7	48,500	41.3	49,300	42.3	36,000	43.7	232.50

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年9月期2Q	165,052,729株	2021年9月期	165,041,841株
2022年9月期2Q	10,214,291株	2021年9月期	10,214,250株
2022年9月期2Q	154,832,192株	2021年9月期2Q	154,819,291株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たったの注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、一部で企業収益や設備投資に持ち直しの動きがみられたものの、新型コロナウイルス感染症の再拡大や長期化する部材の調達難、ロシア・ウクライナ情勢の影響等により、景気はなお厳しくかつ先行き不透明な状況のなかで推移いたしました。

このような状況におきまして、当社グループは、引続き新型コロナウイルスの感染防止策を講じたうえで、持続可能な社会への貢献を念頭に、長年にわたり培ってきた当社独自の光技術を活かした研究開発を推進することで、売上高、利益の確保に努力してまいりました。その結果、産業用機器分野を中心に売上げが増加したこと及び円安の進行により、売上高、利益ともに当初予想を上回ることとなりました。

当第2四半期連結累計期間における当社グループの経営成績につきましては、売上高は100,516百万円と前年同期に比べ21,174百万円(26.7%)の増加となりました。利益面につきましても、営業利益は28,097百万円と前年同期に比べ13,705百万円(95.2%)の増加、経常利益は28,645百万円と前年同期に比べ14,248百万円(99.0%)の増加、親会社株主に帰属する四半期純利益は21,341百万円と前年同期に比べ10,556百万円(97.9%)の増加となり、増収増益となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

[電子管事業]

光電子増倍管は、医用分野におきまして、フローサイトメーターなどの検体検査装置向けの売上げが国内外での需要が高まり増加いたしました。また、産業分野における半導体検査装置向けの売上げも半導体市場の拡大を受け国内外で増加したほか、高エネルギー物理学実験等の学術向けの売上げも増加いたしました。

イメージ機器及び光源は、産業分野におきまして、EV(電気自動車)生産の拡大や世界的な5Gの普及に伴い、非破壊検査用のマイクロフォーカスX線源が、車載用バッテリー検査や基板検査においてアジアを中心に売上げを伸ばしました。また、シリコンウェハを高速・高品位に切断するステルスダイシングエンジン及び半導体ウェハ検査装置向けの光源の売上げも、世界的な半導体設備投資の活況を受けて増加いたしました。

この結果、電子管事業といたしましては、売上高は39,269百万円(前年同期比30.8%増)、営業利益は16,109百万円(前年同期比57.0%増)となりました。

[光半導体事業]

光半導体素子は、医用分野におきまして、X線CT向けのシリコンフォトダイオードの売上げが、国内外における継続的な需要の高まりを受けて増加いたしました。また、産業分野におきまして、半導体製造・検査装置向けのイメージセンサ等の売上げが半導体需要の拡大が続き増加したほか、産業用ロボットの制御などFA分野におけるフォトIC、フォトダイオード及びLEDの売上げも増加いたしました。

この結果、光半導体事業といたしましては、売上高は46,386百万円(前年同期比26.8%増)、営業利益は17,503百万円(前年同期比77.8%増)となりました。

[画像計測機器事業]

画像処理・計測装置は、デジタルカメラの売上げが、生命科学やバイオ分野に加え、新製品の投入により物理分野においても増加したほか、DNA検査向けにおきましても、海外において好調に推移いたしました。また、病理デジタルスライドスキャナの売上げも、欧州を中心に病院間ネットワーク需要の高まりを受けて増加いたしました。さらに、半導体故障解析装置もアジア及び国内を中心に堅調に推移いたしました。

この結果、画像計測機器事業といたしましては、売上高は11,980百万円(前年同期比14.9%増)、営業利益は3,493百万円(前年同期比49.5%増)となりました。

[その他事業]

半導体レーザーに係る事業、子会社の(株)磐田グランドホテルが営むホテル事業及び子会社の北京浜松光子技術股份有限公司の独自製品に係る事業を含んでおります。

当セグメント(その他)の売上高は2,880百万円(前年同期比24.0%増)、営業利益は378百万円(前年同期比42.5%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

流動資産の主な変動は、現金及び預金が9,249百万円、受取手形及び売掛金が6,622百万円それぞれ増加したことなどから、流動資産は前連結会計年度末に比べ23,334百万円増加しております。

固定資産の主な変動は、建設仮勘定が3,702百万円増加したことなどから、固定資産は前連結会計年度末に比べ3,667百万円増加しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ27,001百万円増加し、328,678百万円となりました。

流動負債の主な変動は、支払手形及び買掛金が1,677百万円、前受金（流動負債その他）が1,697百万円それぞれ増加したことなどから、流動負債は前連結会計年度末に比べ5,269百万円増加しております。

固定負債の主な変動は、長期借入金が443百万円増加したことなどから、固定負債は前連結会計年度末に比べ281百万円増加しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ5,551百万円増加し、69,656百万円となりました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上などにより利益剰余金が16,998百万円、為替換算調整勘定が4,448百万円それぞれ増加したことなどから、当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ21,450百万円増加し、259,021百万円となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ8,664百万円増加し、98,673百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により得られた資金は20,420百万円となりました。これは主として、税金等調整前四半期純利益及び減価償却費の計上などによるものであり、前年同期に得られた資金17,944百万円に比べ2,476百万円の収入増となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は11,073百万円となりました。これは主として、有形固定資産の取得による支出などによるものであり、前年同期に使用した資金9,944百万円に比べ1,129百万円の支出増となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により使用した資金は3,697百万円となりました。これは主として、配当金の支払額などによるものであり、前年同期に使用した資金3,014百万円に比べ683百万円の支出増となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年9月期通期の連結業績予想につきましては、2022年3月25日付けで公表いたしました業績予想から変更はありません。

なお、連結業績予想の前提となる下半期（2022年4月1日～2022年9月30日）の為替レートにつきましては、1米ドル＝110円、1ユーロ＝125円、1中国元＝17円を想定しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	91,087	100,336
受取手形及び売掛金	42,528	49,150
有価証券	8,671	10,734
商品及び製品	9,106	9,892
仕掛品	23,885	26,474
原材料及び貯蔵品	11,410	13,134
その他	5,622	5,922
貸倒引当金	△193	△191
流動資産合計	192,120	215,454
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	44,853	43,774
機械装置及び運搬具(純額)	12,005	12,011
工具、器具及び備品(純額)	4,923	5,247
土地	17,196	17,272
リース資産(純額)	326	336
使用権資産(純額)	611	668
建設仮勘定	6,561	10,264
有形固定資産合計	86,479	89,576
無形固定資産		
顧客関連資産	1,734	1,740
その他	3,118	3,218
無形固定資産合計	4,853	4,958
投資その他の資産		
投資有価証券	3,907	3,788
繰延税金資産	11,587	11,928
その他	2,747	2,991
貸倒引当金	△19	△19
投資その他の資産合計	18,223	18,689
固定資産合計	109,556	113,223
資産合計	301,676	328,678

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,371	9,048
電子記録債務	7,387	8,247
短期借入金	3,507	3,745
1年内返済予定の長期借入金	3,039	3,094
未払法人税等	6,700	6,763
賞与引当金	5,814	4,826
その他	18,473	21,836
流動負債合計	52,293	57,562
固定負債		
長期借入金	3,240	3,683
退職給付に係る負債	6,903	6,726
その他	1,668	1,683
固定負債合計	11,811	12,093
負債合計	64,105	69,656
純資産の部		
株主資本		
資本金	35,008	35,048
資本剰余金	34,752	34,792
利益剰余金	185,206	202,205
自己株式	△20,797	△20,797
株主資本合計	234,170	251,249
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,191	1,044
為替換算調整勘定	1,592	6,040
退職給付に係る調整累計額	△431	△426
その他の包括利益累計額合計	2,351	6,658
非支配株主持分	1,048	1,112
純資産合計	237,570	259,021
負債純資産合計	301,676	328,678

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)
売上高	79,342	100,516
売上原価	40,943	46,243
売上総利益	38,398	54,273
販売費及び一般管理費	24,006	26,175
営業利益	14,392	28,097
営業外収益		
受取利息	86	75
投資不動産賃貸料	34	38
持分法による投資利益	—	260
その他	295	392
営業外収益合計	415	766
営業外費用		
支払利息	23	40
不動産賃貸費用	61	53
為替差損	187	72
持分法による投資損失	87	—
その他	51	53
営業外費用合計	411	219
経常利益	14,396	28,645
特別利益		
固定資産売却益	7	15
投資有価証券売却益	4	—
厚生年金基金解散損失引当金戻入額	164	—
特別利益合計	176	15
特別損失		
固定資産売却損	0	1
固定資産除却損	23	57
投資有価証券評価損	53	—
特別損失合計	76	58
税金等調整前四半期純利益	14,496	28,602
法人税等	3,707	7,243
四半期純利益	10,788	21,358
非支配株主に帰属する四半期純利益	4	16
親会社株主に帰属する四半期純利益	10,784	21,341

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)
四半期純利益	10,788	21,358
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	176	△146
為替換算調整勘定	2,359	4,477
退職給付に係る調整額	43	5
持分法適用会社に対する持分相当額	△16	19
その他の包括利益合計	2,562	4,355
四半期包括利益	13,350	25,713
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	13,317	25,648
非支配株主に係る四半期包括利益	33	64

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	14,496	28,602
減価償却費	6,533	6,386
賞与引当金の増減額(△は減少)	△159	△1,023
受取利息及び受取配当金	△112	△124
支払利息	23	40
持分法による投資損益(△は益)	87	△260
売上債権の増減額(△は増加)	△4,741	△4,839
棚卸資産の増減額(△は増加)	1,624	△4,236
仕入債務の増減額(△は減少)	△482	1,000
その他	3,729	2,371
小計	20,999	27,916
利息及び配当金の受取額	112	124
利息の支払額	△23	△40
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△3,144	△7,580
営業活動によるキャッシュ・フロー	17,944	20,420
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額(△は増加)	2,191	△537
有価証券の取得による支出	△631	△2,689
有価証券の償還による収入	631	689
有形固定資産の取得による支出	△11,694	△8,082
投資有価証券の取得による支出	△64	△38
その他	△376	△414
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,944	△11,073
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	222	237
長期借入れによる収入	—	543
長期借入金の返済による支出	△49	△44
配当金の支払額	△3,102	△4,342
その他	△84	△91
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,014	△3,697
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,432	3,015
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	6,417	8,664
現金及び現金同等物の期首残高	68,773	90,008
現金及び現金同等物の四半期末残高	75,191	98,673

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過の取扱いに従っておりますが、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過の取扱いに従って前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過の取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(会計上の見積りに対する新型コロナウイルス感染症の影響について)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した、会計上の見積りに対する新型コロナウイルス感染症の影響について重要な変更はありません。

(ロシア・ウクライナ情勢の影響について)

ロシア・ウクライナ情勢については、経済制裁や各国規制に基づく営業活動への影響及び資源価格の高騰による影響が懸念されますが、当社グループの業績及び財政状態に与える影響はいずれも軽微と見込んでおります。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自2020年10月1日至2021年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	電子管	光半導体	画像計測機 器	計				
売上高								
外部顧客への売上 高	30,013	36,579	10,425	77,018	2,323	79,342	—	79,342
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	434	184	6	626	435	1,061	△1,061	—
計	30,448	36,764	10,432	77,644	2,759	80,403	△1,061	79,342
セグメント利益	10,263	9,846	2,336	22,446	265	22,712	△8,320	14,392

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、半導体レーザーに係る事業、子会社の(株)磐田グランドホテルが営むホテル事業及び子会社の北京浜松光子技術股份有限公司の独自製品に係る事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△8,320百万円には、セグメント間取引消去△440百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△7,879百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び基礎的研究費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第２四半期連結累計期間（自 2021年10月1日 至 2022年3月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	電子管	光半導体	画像計測機 器	計				
売上高								
日本	9,789	12,470	3,481	25,741	755	26,497	—	26,497
北米	10,181	12,383	2,995	25,560	152	25,713	—	25,713
欧州	7,714	11,240	2,630	21,586	272	21,858	—	21,858
アジア	11,469	10,283	2,847	24,600	1,698	26,299	—	26,299
その他	113	9	25	148	—	148	—	148
顧客との契約から 生じる収益	39,269	46,386	11,980	97,636	2,880	100,516	—	100,516
外部顧客への売上 高	39,269	46,386	11,980	97,636	2,880	100,516	—	100,516
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	793	569	12	1,374	892	2,267	△2,267	—
計	40,062	46,955	11,993	99,011	3,772	102,784	△2,267	100,516
セグメント利益	16,109	17,503	3,493	37,106	378	37,485	△9,387	28,097

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、半導体レーザーに係る事業、子会社の㈱磐田グランドホテルが営むホテル事業及び子会社の北京浜松光子技術股份有限公司の独自製品に係る事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△9,387百万円には、セグメント間取引消去△957百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△8,430百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び基礎的研究費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益の算定方法を同様に變更しております。なお、この変更による各報告セグメントにおける当第2四半期連結累計期間の「外部顧客への売上高」及び「セグメント利益」への影響は軽微であります。